

絆とやすらぎの里粟井村

美作市立粟井小学校・粟井幼稚園 開校記念式典

【三月二十二日】

粟井小学校百四十一年の歴史は、地域の歴史であり、地域文化の中心・住民の心のよりどころとしての大きな役割がありました。

粟井小学校は閉校しますが、この粟井村は、永遠に希望をもって次の世代に引き継がれるよう努力を惜しまず歩み続けます。この素晴らしい校舎を、私たちが三年前に掲げた、「幼児から高齢者まで、いつでも笑顔が集う場所」どの年代においても学び育ち合う場所として、再び開校し、「住民の心のよりどころ」となるよう活動を続けていきます。そして、五年後、十年後のあるべき姿を想像しながら、粟井村のより良い未来を切り開く努力を続けていきます。「粟井つ子」のふるさとが、「小規模多機能自治」の拠点になるよう、取り組みを進めます。ご支援、ご協力よろしくお願ひ致します。



シャボン玉クラブ 【3月15日】

能登香の家で、「生活志の交流グループ」の方から、昔ながらの「餅つき」の手順を、親子で教えて頂きました。子どもも頑張りました。



「都市農村共生 対流総合対策交付金」事業

一年間ご協力ありがとうございました。

「都市農村共生対流総合対策交付金」事業は、農水省の三年間の事業です。平成二十五年度から取り組み、二年間経過しました。①集落連携推進対策②人材育成対策の二つに分かれており、①の交付金は三月三十一日を以て終了します。しかし、三年間の事業ですから、事業評価等も一年続きます。②は人材を確保できず、取り留めませんでした。これからは、交付金なしでの活動です。この二年間の真価が問われます。「能登香の里小房」の経営は、全て自己資金での運営です。人件費も含めて、収入以上の支出は出来ません。地区を潤すには、収入を増やす努力が必要ありません。

◆取り組み一年間の反省

- ①二年間の取り組みで、粟井地区の集落連携がかなり進み、粟井地区民の横の連携が図られつつある。情報も一部の人だけでなく地区民に開かれてきた。
- ②美作市の担当課との信頼関係が出来、多くの事業が、美作市と協働で行われた。中四農政局と太いパイプが出来た。
- ③市内で「粟井は、村創りの会が最も頑張っている」「粟井は新規定住者が増え、地元との関係が良い。」など随分評価されてきた。一方で、
- ④美作市からの提案から取り組み開始までの期間が短く、地区民に取り組みの趣旨が十分浸透したとは言いがたい。今後は、協議を重ねながら粟井地区民全員での村創りが望まれます。互いの意思疎通と共通理解が大切です。

粟井地区村創りの会 理事会報告 【二月二十二日】

◆これからの村創りの会

昨年の四月二十七日の「粟井地区村創りの会」第二回総会において、規約についての質問が出され、理事会で協議し、会長名で地区民に回答が配られました。「共生対流事業が終われば、簡略した形で会を運営していく」というものでした。今後は、規約は、文書としては残していますが、簡略化した「会則」で運営していくことがH27.2.22.の理事会で決まりました。なお、総会は理事会をもってこれに代えることになりました。これからは、各地区総代会で意見集約をし、反映させて下さい。ご協力、ご理解をお願いします。

◆組織のあり方

共生対流事業終了を受けて、共生対流事業用の組織や部は、廃止します。組織も出来るだけ統合し、わかりやすくします。各部には、部長、副部長、会計を置き、できる限り部内で運営していきます。企画会は、各部間の最小限の調整と、外部との連絡にとどめます。各部と部員一人ひとりの自主的な活動を促していきます。



「お元気でですか。困り事はありますか。」 粟井福祉ボランティアの会 お弁当と野菜ジュースを持って反愛訪問 【二月二十日】

粟井地区福祉ボランティアの会では、今年度一回目の「反愛訪問」を行い、高齢者の方の見守り活動を行いました。来年度からは「ちよつとだけお助け隊」「高齢者支援サポートセンター」に加えて、美作市社協の「おたががいさまネットワーク」も始まります。「絆とやすらぎの里粟井村」にまた一歩近づきます。会長の有友正大さんは、「高齢者の方に少しでも喜んでもらえれば。」と喜んでおられました。高齢者の安心・安全にみんなが協力して取り組まれています。



作東地域社会福祉協議会視察研修会 【二月五日】

作東地域社会福祉協議会で、倉吉市上井地区社会福祉協議会に視察研修に行きました。①上井地区の地域福祉活動について②上井地区社協の見守り活動について③情報交換が視察内容でした。・高齢者の集い・いきいきサロン交流 ・お年寄りの料理教室・ふれあい給食サービスマスターなど、今後粟井社協の取り組みの参考となる事柄をしっかりと吸収してきました。ご期待下さい。



広報誌 「能登香の里 あわい村」

これまで二年間、「共生対流総合対策交付金」事業を地区民に周知するために発行してまいりましたが、交付金の終了により、今後の対応が迫られています。今までは、「コピー代や用紙代は全て交付金から支出してきました。村創りの会に代わる資料等も全て交付金からの支出でした。今後は発行の目的から検討し、資金の出所、記事の編集方など協議していかなくてはなりません。二年間読んで下さり、また、配布等に協力して下さい、ありがとうございました。

◆今後の発行の方法

村創りの会の中の各組織等から代表者を出し、編集部を作り発行する。発行回数等は、編集部で協議していく。必要経費の出所は粟井自治振興協議会で協議して決める。

